

平成27年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立海老名中学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6
(資料) 学習・生活習慣と学力との関係	P. 7



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが、平成25年度から再び全国すべての小中学校が対象となりました。

なお、今年度実施された「理科」については、3年に一度実施されるものです。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成27年4月21日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと」に関する設問は相当数の生徒ができています。相手の反応を踏まえて話す力がついていると考えられます。
- 登場人物の心情を理解することや行動の理由や意図を考えることは相当数の生徒ができています。他の設問への解答からも「読むこと」に関する力が高いことが窺えます。
- 文章に即して漢字を正しく読み書きすることや、文脈の中で適切に使うことは相当数の生徒ができています。

《努力を要する所》

- グラフの変化から読み取った事柄を、相手に伝わるように明確に書くことに課題があります。簡潔かつ的確に書くために、言葉を精選する力が必要です。
- 要望に対する回答の冒頭に一文を書き加える問いの結果から、伝えたい事柄を効果的に表現する力に課題があると考えられます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- スピーチをする際の効果的な資料の作成やその有効な活用に関する設問は、相当数の生徒ができています。「話すこと」の学習におけるスピーチやプレゼンテーションの経験が生かされていると考えられます。
- 怪談「貉」の翻訳に関する設問において、翻訳の意図や表現の工夫を理解することは、相当数の生徒ができています。文章における「表現」が持つ意味や、果たす役割を理解していることが窺われます。

《努力を要する所》

- 資料の提示の仕方を選択することは相当数の生徒ができていますが、その意図や理由を他の資料と結びつけて具体的に説明することに課題があります。
- 複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを構築し、それを具体的に書く力が求められます。

今後の具体的な取組

- 国語A・Bのいずれにおいても無解答率は低く、設問に真摯に取り組む姿勢が窺えます。自分の考えを話す、他の考えを聞くといった言語活動を充実させ、一人ひとりの意見発信力のさらなる向上を図ります。
- グラフを含めた複数の資料から自分の考えを構築するために必要な情報を得る力や、収集した情報を基に自分の考えを効果的かつ具体的に書く力を高めるために、資料の精選と書く場面の増設に努めます。



数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 正の数・負の数の意味を実生活に結びつけて理解し、計算のきまりにしたがって、加減乗除を含む計算をする力が身についています。
- 関数の意味を理解し、グラフを具体的な事象と関係づけて読み取ったり表から変化の割合や対応の特徴を捉え、式に表したりすることができています。
- 度数分布表に基づき、ある階級の度数を求めることや、樹形図や表を用いてあることが起こる場合を整理し場合の数を求めることは、相当数の生徒ができています。

《努力を要する所》

- 具体的な事象において、数量の関係を文字式に表すことや、着目する数量を見いだして方程式をつくることに課題があります。
- 証明の必要性和意味についての理解が不十分です。図形の学習において、証明方法の習得とともに、演繹と帰納の考え方の違いなどについて理解を深める必要があります。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

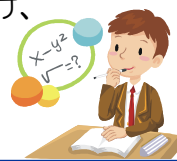
- 連続する整数の和に関する設問では考察しようとする対象を明確に捉えて、発展的に考えたことを説明することは、相当数の生徒ができています。
- 表やグラフを基に事象を考察する場面では、必要な情報を選択して判断したり、その結果から問題解決のための新たな構想を立てたりすることができています。

《努力を要する所》

- 記述式の設問において、数学的な表現を用いた理由の説明や、図形の性質に基づく方法の説明などに課題があります。無解答率の高さとともに部分的な説明が多く見られます。
- 合同条件を用いた図形の証明を振り返り、そこから新たな性質を見いだすことに課題があります。

今後の具体的な取組

- 反復学習によって基礎的・基本的な力を高め、達成感を実感させることにより学習意欲の向上を図ります。理解が不十分な生徒へは、実態に応じた働きかけを行います。
- 授業において、日常的に数学的な表現を用いて説明する場面を設け、条件を意識して理由を説明したり、問題解決の方法を説明したりする活動を充実させます。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 物理、化学、生物、地学のそれぞれの領域において、多くの生徒が用語の意味や説明など、基本的な知識が定着しています。
- 化学領域について、実験で得られたグラフを読み取り、正しく考察することができています。また、反応に参与している物質を特定するための対照実験の計画を的確に立てることができています。
- 生物領域について、対照実験の結果から目的に対する考察をすることができています。実験によって生じた新たな疑問に対する課題設定ができ、目的に応じて科学的に追求することができています。

《努力を要する所》

- 物理領域において、凸レンズの仕組みの理解と、電磁誘導の仕組みの理解に不十分さが見られました。
凸レンズについては、物体、レンズ、およびスクリーンの位置関係による像の作り方を作図から理解することが課題です。
- 地学領域において、気象観測に関する理解が不十分でした。飽和水蒸気量曲線と相対湿度の関係について、表の数値をグラフ化していくことで理解を深めていく必要があります。

今後の具体的な取組

- 意味の理解から、それを文章として表現することに苦手意識があります。原因と結果を論理的に結びつけられるように、記述する活動を多く増やして取り組んでいきます。
- 実験的な内容を多く取り入れ、知識と技能および思考力のつながりを深める活動を行っていきます。また、実験データをグラフ化することで、数値の可視化を行い、科学的な判断力を高める活動を行っていきます。
- 話し合い活動を多く取り入れ、個々の考えを集団的に発展していきけるよう取り組みます。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 毎日、家で2時間以上勉強する生徒が多く、予習、復習をよくやっています。
- 国語の授業で発表するとき、話の組み立てを考えて発表すると答えた生徒が多く見られました。
- 数学の授業では、解き方や考え方が分かるように、ノートに書いている生徒が、県や全国に比べて10%近く上回っています。
- 理科の勉強は大切かと答えた生徒は、県や全国を15%も上回っています。また、理科で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと答えた生徒も多く見られました。

《課題と思われる所》

- 国語では、自分の考えを理由が分かるように書くことを苦手とする生徒が多く見られました。
- 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか、考え方を工夫していく必要があります。
- 理科では、自分の考えや考察を説明することを苦手とする生徒が見られました。

生活について

《よかった所》

- 基本的な生活習慣がきちんとできている生徒が多くみられ、また、規範意識も高く、98%の生徒が規則を守っていると答えています。
- 物事を最後までやり遂げてうれしかったことがあると答えた生徒は80.3%で、県と全国を大きく上回っていました。クラスみんなでやり遂げ、うれしかったことがあると答えた生徒は、74.8%で、県と全国を大きく上回っていました。
- 「家の人は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」では、よく来ているが59.2%で県や全国を上回っています。

《課題と思われる所》

- 図書室や図書館の利用率が低く、週に1~3回以上と答えた生徒が、全国よりも半数近くしかいませんでした。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」との問いでは、していると答えた生徒は県や全国より低い結果でした。

今後の具体的な取組

- 授業の最初に学習目標を明確に伝え、目的意識を持った授業参加と、授業の最後に学習内容の振り返りができるように指導していきます。
- 言語活動の充実を図るため、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動を通して、発言する機会や友達の話聞いて考える活動を、多く取り入れていきます。
- 学校生活全体を通して、互いを認め合い、尊重できる人間関係を構築し、一人ひとりの生徒を、大切に指導を心がけていきます。



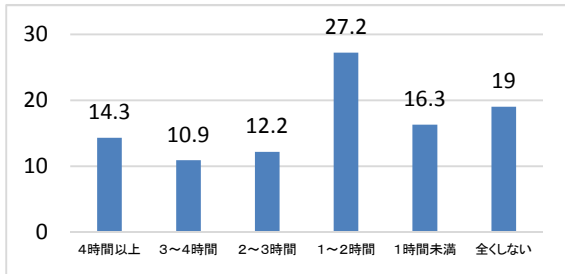
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 ゲームの時間を少なくしていきましょう。

○TVゲームは減少傾向ですが、携帯ゲームの種類は多様化してきています。

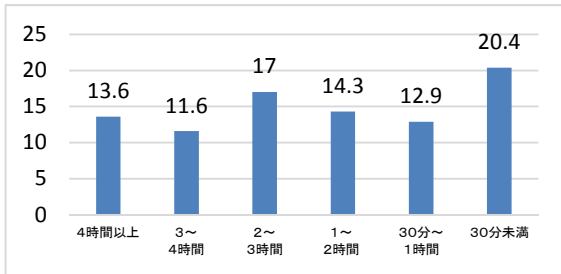
TVゲームと携帯ゲームの利用時間は



2 メールやインターネットの使用時間を決めましょう。

○メールやラインについては、遅い時間に使用し利用時間も多くなってきています。

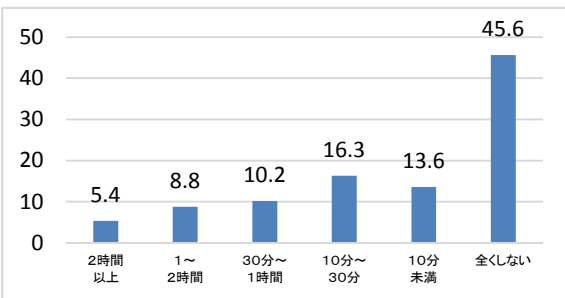
メールやインターネットの利用時間は



3 読書に親しみ、自分の世界観を広げましょう。

○読書は人生の教科書と言われます。好きなことや趣味の世界を広げて行きましょう。

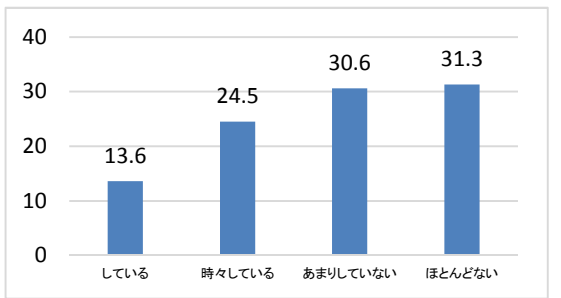
○読書にける時間はどれぐらい



4 地域の行事に参加して、地域に親しみ出合いを大切にしましょう。

○地域行事も少なくなり、参加する機会も限られてきましたが、人との出会いは大切に。

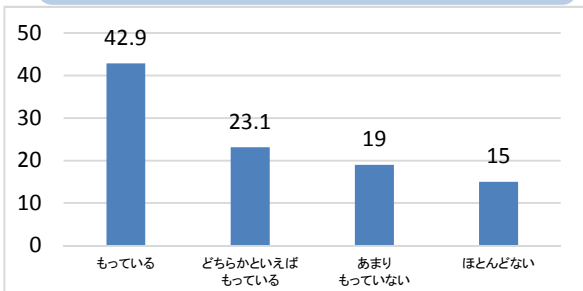
○地域の行事に参加していますか



5 夢や目標を大切にできる生き方を心がけましょう。

○夢や目標は自分にエネルギーを与えてくれます。将来に向かって一歩ずつ前進。

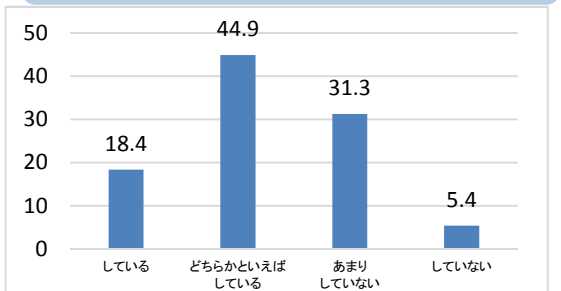
○将来の夢や目標をもっていますか



6 失敗を成功の糧にして取り組んでみましょう。

○失敗の経験は、自分を伸ばすチャンスになります。

○失敗を恐れず挑戦していますか



文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

児童・生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数、理科に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて勉強をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【メディアとの関係】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い



平成27年11月